

連携医院のご紹介

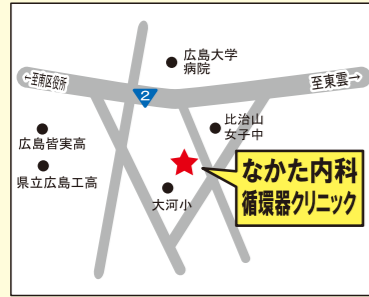
今回は「受診しやすく、話しやすい環境づくり」を大切にしておられます なかた内科循環器クリニック 中田 篤範先生です。



中田院長とスタッフ

なかた内科循環器クリニック

〒734-0036
広島市南区旭一丁目5-31
電話 / 082-298-7799
院長 / 中田 篤範
診療科目 / 内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科



○いつ開業されましたか。

平成21年4月に開業しました。周囲の方々の協力あっての事であり、感謝しております。

○毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

まずは、じっくりと患者さんの訴えや話を聞くように心がけています。患者さんは、色々なストレスや不安や悩みをもって来院されます。患者さんの顔を見て、しっかりと訴えを聞き、それに対する診療方針を、できる限り丁寧にわかりやすく説明し、納得していただくようにしています。そのため、スタッフ一同「受診しやすく、話しやすい」環境づくりにつとめています。

○開業医のやりがいは何ですか？

開業医は患者さんとの距離が近いので、患者さんの満足していただける診療ができた時にはとてもうれしいです。患者さんに感謝の言葉を頂くと、やっていて良かったと心から思います。

○県病院に一言お願いします。

内科のみならず、色々な診療科にお世話になっています。難しい病気や救急の場合でも、快く診療して頂き、とても頼りにしていると共に、いつも感謝しております。また、窓口である病診連携のスタッフのみなさんには、患者さんとの連絡や予約の調整などしていただきお世話になっています。今後ともよろしくお願いします。



なかた内科循環器クリニック外観

【取材後記】

先生は話しやすい雰囲気作りをスタッフ全体で取り組まれています。取材中も相談のお電話に対応されており、気さくな先生のお人柄を感じました。

県立広島病院広報誌 もみじ

第65号
2014.7.1
発行



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

楽団 プロメテウスアンサンブル



院内テレビ放送にて中継するので入院中の患者さんでもコンサートを楽しんで頂いています

平成9年に第1回目の七夕コンサートを開催して以来、今年で18年目を迎えます。また、第35回目の院内コンサートとなります。

当院では、多くの患者さんやご家族の皆さんに安らぎと潤いのある病院として愛され、ご信頼をいただけるよう、また、皆さんと一緒に楽しく、心温まるひとときを過ごさせていただきたいと考え、毎年、七夕とクリスマスに、プロメテウスアンサンブルの方々に様々な趣向による素晴らしい演奏を御披露いただいています。



プロメテウスアンサンブルとは

プロメテウスアンサンブルは、広島在住の女性演奏家により、1988年に結成され、楽団名は、変幻自在の神「プロテウス」の名にちなんで名付けられています。トリオやカルテットから弦楽合奏など様々な形でアンサンブルに取り組み、胎教コンサートやテレビ、ラジオへの出演など幅広く御活躍中です。

多くの方々にお聴きいただくとともに、皆様にとって、楽しいひとときとなりますことを願っております。プロメテウスアンサンブルの皆さん、いつもありがとうございます。



県立広島病院からのお知らせ

がん医療従事者研修会

開催日 平成26年 7月 31日(木)
時間 18:30~20:00
場所 中央棟2階 講堂
テーマ 乳がんの最新治療
講師 消化器・乳腺・移植外科部長/松浦 一生
形成外科部長/永松 将吾
臨床腫瘍科部長/土井 美帆子
対象 医療従事者 及び その関係者
問合せ先 総務課管理係 (担当: 永岡)
TEL:082-254-1818
内線 (4273)

がん専門医よろず相談所

日程 毎週 火曜日 13:00~16:00 **無料**
場所 中央棟1階
がん相談支援センターがんよろず相談所
対象 がんと診断された患者さんとそのご家族
(当院での受診歴は問いません)
方法 面談 (予約制)
相談医 栃木県立がんセンター 名誉所長
児玉 哲郎 先生

☎082-256-3561 (直通)
あらかじめ電話でお申込み下さい



予約開始しました!

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他2,690円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。
※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承下さい。

KBネット

現在の参加医療機関 (6月20日現在)
177
問合せ先 地域連携センター
電話(082)252-6228(直通)

私のこだわり

栄養管理科主任部長
消化器・乳腺・移植外科部長 眞次 康弘

皆様こんにちは。私は栄養管理科で給食業務、栄養管理(治療)、栄養サポートチームを統括するとともに、消化器外科に在籍し胆道・膵臓外科チームを務めております。今回、「外科医の独り言」の向こうを張って「私のこだわり」を紹介致します。この企画は今後、連載されるらしいです。どうぞご期待ください。



膵臓手術の特徴

膵臓はおなかの最も奥深い背中側にある100g弱の小さな内臓ですが、消化液の膵液や血糖を調節するインスリンを作る重要な役割を担っています。膵臓は胃、十二指腸、肝臓、脾臓、腎臓、大腸や各臓器に分布する大きな血管に取り囲まれています。また胆汁の通り道の胆管が、膵臓の頭の部分の中をトンネル状に走っています。そのため膵臓の頭の部分にがんがある場合は、膵臓頭部と十二指腸、胆管、胃の一部、場合によっては門脈という太い血管も一緒に取る「膵頭十二指腸切除術」という手術を行います。そして食物や消化液が元通りに流れるようにそれぞれの臓器をつなぎ合わせる非常に複雑な手術です。

私のこだわり

膵臓の手術は複雑で難易度が高いゆえ、こだわりを持っている先生が沢山います。私もその一人ですが今回、二つほど紹介いたします。

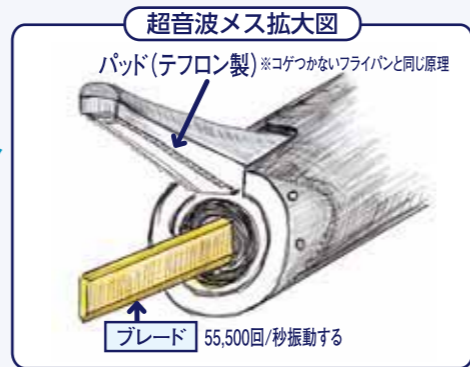
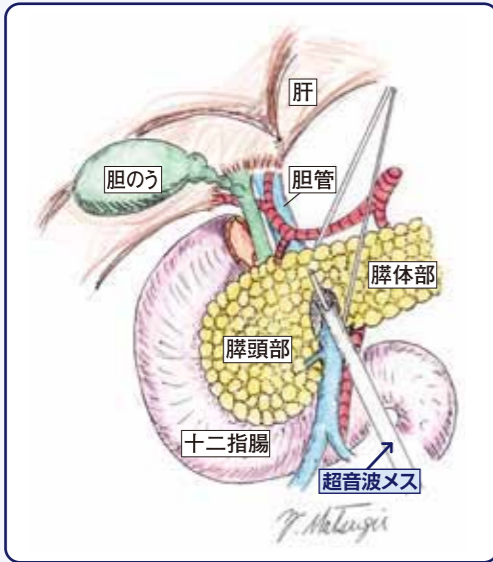
その声 超音波メスで膵臓を切る

私は膵臓を切る方法にこだわっています。現在、膵臓を切る代表的な刃物は普通のメス、電気メス、そして超音波メスの三種類です。超音波メスは、刃先が毎秒55,500回振動して発生する衝撃波と摩擦熱で血を出さないようにして組織を切ることができる手術器具です。といってもだれが使っても上手く切れるわけではありません。スパッと切れば血が出ます。焼きすぎると焦げ付きます。ちょうど良い加減に焼いて切る、そこにコツとこだわりが必要です。火加減、焼き加減に全身全霊を注

ぐ陶器職人のようなものでしょうか。もちろん手術の場合は一発勝負です。上手くいかなかったから投げつけて割ってしまえばよいというものではありません。だから、こだわりをもって器械の出力を調整し、超音波メスを持つ指先の力加減に神経を集中して切ります。超音波メスで膵臓を切る方法は、1997年に県立広島病院を含む世界数施設でほぼ同時に開始されました。その数年前、私は広島大学第二外科に在籍しており、超音波メスで動物の膵臓を切る実験を行っていました。その当時の安全性と有効性のデータを県立広島病院に提供しました。その後、この方法は広く普及し現在に至っています。器具改良が進み、より使いやすくなりましたが、導入当初の指先の力加減と気持ちを忘れず、今も手術に臨んでいます。

その式 膵臓の手術は栄養が大事

膵臓手術は複雑で難易度の高い手術です。手術の危険性をできるだけ回避し、患者さんの早期社会復帰を実現するために手術前後の栄養管理にこだわっています。具体的には手術1週間前から体の免疫力を上げる栄養サプリメントと善玉菌を患者さんに飲んでもらい腸内環境を整えます。手術前日は脱水予防のため点滴の代わりに経口補水液を飲みます(所ジョージさんが宣伝しているアレです)。術後は食事が十分とれるようになるまで栄養サプリメントを飲んでもらい、傷の治りを促進します。さらに術後の筋力低下を予防し早く歩けるようにリハビリテーショントレーニングを行って早期社会復帰を応援しています。これらのプログラムは病棟スタッフ、栄養サポートチーム、リハビリチーム、口腔ケアチーム等の多職種が専門知識を持って治療に関わる「チーム医療」により成り立っています。県立広島病院ではすべての職員が、わっと患者さんを取り囲み、少しでも早く元気になれるように懸命に働いています。



画：眞次 康弘

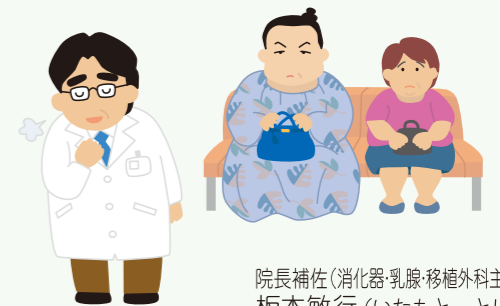
外科医の独り言 no.34

— ぽっちゃりのススメ —

数年前から、痩せている人よりはぽっちゃりしている人の方が長生きすると言われていました。最近、全世界から二百数十万人のデータをまとめて解析したところ、やはり同じような結果が出たとの報告があったので間違いないと思います。日本の研究でも同様の結果が出ています。これって今までメタボはダメ、痩せろとか言われていたのと真反対のこと?どうすりゃいいのって感じですよ。皆さんも良くご存じだと思いますが肥満指数(BMI)というのがあります。体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で計算できます。今朝の私の体重で計算すると26.4でした。身長をcmで計算するととんでもなく低い数値がでますのでお間違いなく。さて皆さんの肥満指数が出たでしょうか?この肥満指数が18.5未満であれば“やせ”、18.5以上25未満は“普通”、25以上30未満は“太り気味”、30以上は“肥満”に分類され、私は“太り気味”いわゆる“ぽっちゃり”に堂々の仲間入りです。日本人の理想は22と言われてきました。ちなみにこの計算式で行くと横綱白鵬の肥満度は41.5で圧倒的“肥満”、“でっぷり”に入ります。一般的に肥満というのは体の脂肪が一定以上多くなった状態を表す言葉ですが、白鵬の場合は骨も太く、筋肉量も桁外れに違うので“でっぷり”というのはかわいそうかもしれません。さて問題の長生きの順番ですが、一番長生きなのは“太り気味”で、以下“普通”、“肥満”“やせ”で、“太り気味”と“やせ”の間の平均余命の差は、男性で7.1歳、女性で6.3歳だそうです。ただし、ここで誤解があってはいけないのははっきり申し上げますが、高血圧や糖尿病がある肥満の方は、薬物療法に加えて食事療法や運動療法などによる体重コントロールが長生きの秘訣であることは言うまでもありません。中高年のぽっちゃりな人は、血圧

や血糖値などの検査データに異常がない限り無理して痩せなくても良い、ということが言いたかったのです。

最近90歳以上の超高齢者の手術をする機会が増えました。以前から感じていたことですが、最近確信するようになったことがあります。女性の高齢者でぽっちゃりの人は手術からの回復が早い、ということです。90歳を超えると患者さん、家族だけでなく医者も手術に耐えられるかなあ、と不安になります。特に、緊急手術となると高齢に加えて全身状態も良くないので、その不安は一層大きくなります。ただ手術をしなれば助けようがない状況なので手術に踏み切るわけですが、ぽっちゃりの人は皮下脂肪をタププリと蓄えているだけあって、いざという時の火事場で、この皮下脂肪がボーボーと燃えてエネルギー源になるのでしょうか、回復の早さに驚くことがあります。残念ながら、超高齢男性でぽっちゃりの患者さんを手術する機会があまりないので、今のところぽっちゃり女性限定の印象です。ぽっちゃりということは栄養状態が良くて、おそらく体に抵抗力(免疫力)があるということにすぎないのかもしれませんが、ぽっちゃり女性を見ると妙に安心する今日この頃です。ただし、そんな良い事ばかりのぽっちゃりな私自身、ある理由で減量に取り組もうと思っています。まあどうでもよい話ですが、その理由は次号で。



院長補佐(消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本敏行(いたもと としゆき)

病棟編

看護部だより

南7病棟

南7病棟は精神神経科の病棟です。うつ病、摂食障害、老年期精神障害、統合失調症などの入院受入れを行っています。また、総合病院の中にある精神神経科の役割として身体合併症のある方を受入れ、他の診療科と連携して治療を行っています。



南7病棟スタッフ

看護方式は受持ち制を継続しており、メンバー間で意見交換をして、よりよい看護が提供できるように取り組んでいます。入院時より受け持ち看護師を中心に、入院期間中の援助内容を患者さんと共に確認しあい、休息がとれるように環境を整え、話や悩みを聴く姿勢を大切にしています。日常生活の援助は患者さんのペースに合わせ、危険防止に努めながら、安全に入院生活が過ごせるように心がけています。多職種カンファレンスを通じて患者さんの理解を深め、早期から退院に向けた支援ができるように、外来や他の医療機関とも連携しています。継続的な医療、看護ができるチーム医療を目指しています。